

われもこつ 第33号

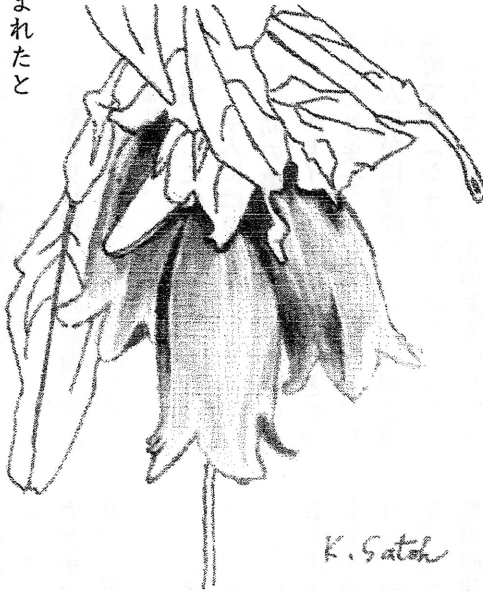
2012年7月25日 発行

●道端の花

ヤマホタルブクロ (キキョウ科)

花期 六月～七月

山野の道端や
田の畦などに
生える。
花の名は昔の
子供たちが、
花の中に螢を
入れて遊んだ
ところから生まれたと
いわれる。



花は梅雨に入ってから咲き始め、
紅紫色の濃淡、白色など変化が多い。

この花を見ると幼い頃つかまえて持ち帰った螢を
蚊帳の中に放して眠ったことを思い出す。
螢が沢山飛んでいた昔むかしのお話です。

フランスアルプスの野の花をたずねてp.2

森のようちえんぴっぴ 訪問記p.4

この本おすすめ! 「軽井沢のホントの自然」p.5

会員の声p.6

南仏紀行①

フランスアルプスの

野の花をたずねて



アルプス山麓の野の花、皆さんはどんなイメージをお持ちでしょう。私にはイネ科の牧草が広がっている印象が強く、それほど期待感はなかったのです。ところが、野草の撮影に凝っている友人から同行を誘われて行ってみると、ス・ゴ・イの一語でした。

訪れたのは、フランスアルプス。アルプスの主要部は東西に山稜が走っており、北側がスイスとオーストリア、南側がイタリアです。この主要部の西の端にアルプス最高峰のモンブランが聳えているのですが、フランスアルプスは、これよりさらに西南方、アルプスの末端に当たりま

す。冬季オリンピックの会場、グルノーブルやアルペールビルはその一角になります。

基地としたのは、ブリアンソンという日本人にはほとんど知られていない山間の美しい町。地中海の港町・マルセイユとシャモニーとの中間にあります。軽井沢と標高、気温、人口がほぼ同じ、そして同じ街道町です（シャモニーはモンブランのふもととの町）。先の友人は訪問時期も六月中旬の最適期を選んでくれました。彼の地は地中海性気候の特徴で、夏期に乾燥、野草はほとんどひからびてしまします。一方で四、五月の降水量が多いものですか

ら、六月に、一年中の花が一斉に開花するというわけです。マツムシノウヤワレモコウといった、軽井沢の代表的な秋の草花も春植物とともに咲いていました。知らない花の方が圧倒的ですが、クロツカス、スミレ、キンバイ、キンポウゲ、ワスレナグサ、サクラソウ、リュウキンカ、ナデシコ、ネコノメソウ、ナルコユリ、フウロ、オダマキ、キキョウ、シオガマ、チョウノスケソウ、ケシ、ウマノアシガタ：などの花々とともに。もっともいずれの花も日本のはと異なります。サクラソウも大半は黄色でした。ともかく、道ばた、牧場、原野を問わず花また花。しかもどういいうわけか、特定の種が群落を作るといいうのではなく、様々な花が入り乱れて咲いていることが多いのです。

はじめは恐る恐る道ばたから見ていたのですが、考えてみればいずれは家畜が入ってムシヤムシヤ食べる

場所であることに思い至り、次第に草原に立入って花を踏み荒らしながら鑑賞した次第。最も印象的だった花は何かと問われれば、ルリソウの近縁種、ワスレナグサだったでしょう。鮮やかな赤、黄などの暖系の色が多い花の中に、無数のそれが好ましいアクセントになっていました。そして雪に輝くアルプスを背景に花々が風にそよいでいる様は、それ以上の景観は考えられないと思つたことでした。

実は帰りがけにシヤモニーに寄り、ここでもハイキングをしてきました。ブリアンソン周辺に比べて圧倒的に野の花の種類も量も少ない。日本で紹介されている野の花の名所の一角というのに……スキー場などで開発されすぎたということでしょう。よく解りません。

冒頭にアルプスの野の花にあまり期待していなかったと書きました。それにはそれなりのリクツがあつた

のです。ヨーロッパの樹木の種類は我が国に比べて圧倒的に少ない。氷河時代、ヨーロッパの大半は厚い氷によつて覆われ、樹木は絶滅しました。ところが約一万年前あたりから暖かくなり南から樹木が厳しいアルプスを越えて侵入、今日のヨーロッパの森となつたのです。いわば、造り成地に樹木が侵入したばかりといった状態で、時間の蓄積がないために種類が少ないのです。私はそれ故、野の花も同じと思つていました。でもそれは間違ひでした。氷河に覆われなかつたヨーロッパの平地は、寒さのために樹木は絶滅したものの、野の花が咲き乱れる草原は広大に広がっていたのです。そして、それ以降、幾万年という長い時間を経ていわば熟成されたものがブリアンソンの周辺で見た草原と野の花だったのでしよう。

軽井沢駅に戻り、我が家への道すがら見たのは、樹木の圧倒的に濃い

緑と、道ばたに繁茂するイネ科の草でした。これでは野の花が咲き乱れるはずがない。南欧でもイネ科植物はあるのですが、「沢山あるうちの一つの種類」で、決して「繁茂」というわけではありません。やはり夏の乾燥のせいなのでしょう。かつての軽井沢は「野の花の天国」でした。沢山飼っていた牛馬のための草刈り、これが効いていたのでしよう。当「われもこうの会」の草刈りの対象も、大半はイネ科の「雑草」ではないでしょうか。

なお、もの本では日本の方が野草の種類はアルプス周辺の二倍ほどあるのです。「生物多様性」では日本の方に軍配が上がるのですが……

《良武》

つづきは

南仏紀行②

ヨーロッパアルプスから軽井沢が

見えてきた!

次号「われもこう」に掲載します。

一年中、室内ではなくて外で遊ぶようちえんが軽井沢にあるって知ってますか？

それは発地の杉瓜、ぴっぴの森（軽井沢フェローシップバイブルキヤンプ場）にありました。未だおむつをしている二歳児から来年入学する五歳児まで二十八人、五人のスタッフ（子どもたちもスタッフ同士も「せんせい」ではなく「まゆさん」「しんさん」などと呼ぶ）と軽井沢の森に囲まれた豊かな自然の中で、散歩したり、田んぼで田植えや稲刈りしたり、ヒオトープで遊んだり、冬は雪と戯れて過ごすのです。



by Yoko.E

詳細・お問合せ先は

森のようちえんぴっぴ

で検索

<https://sites.google.com/site/pippi/>

この本
おすすめ!

軽井沢の
ホントの自然

石塚 徹 著
ほおずき書籍 発行

き上げてもらい、甘えて泣きだす子もいて、矢張り親にはかなわないですね。

「子どもたちにいつの季節が好き？」と聞いたところ、「雪で遊べる冬が好き」と答えが返ってきました。外で寒かろうに、そんなことは大人の余計なお世話。

震災の前までは焚き火で暖をとったり、パンを焼いたりしていたのが、その後は薪ストーブを庭に置いたものの、子どもたちは暖をとる時間も惜しいほどに遊びに夢中です。

した時は相撲をとったり、二人がオバコの莖で互いに引っ張ってちぎれた方が負けという遊びをしたり、私たちもその遊びに参加しました。この間、殆ど車が通らない道を歩くので、安心して散歩できることは安全でいいですね。

散歩から帰ったらランチタイムはもちろん野外。切り株の椅子に腰かけ、スタッフが育てたお米や野菜を使った食事は噛みしめるほどに美味でそぼろ肉の味付けは最高。テザートは東御産のブルーベリーで私には今季、初物でした。子どもたちも完食して、お代りしてる子もいました。少し野菜が苦手な子どもにもスタッフがやさしく根気よく食べさせていました。

食後は広い庭で自由に遊ぶ時間。木やフリキ素材のままごと道具で遊んだり、鉄棒もありました。プラスチック製のおもちゃはありません。日々拾う木の枝や葉っぱなどは、毎

軽井沢ってどんなトコ？って聞かれたら、緑がいっぱいで自然豊かな避暑地です、と答える人が多いのでは？

でも知らないことだらけではありませんか？ 庭の手入れをすれば色んな毛虫に出会うけれど、どんな蝶や蛾になるのかわからないし、色んな鳥のさえずりが聞こえてきても、ウグイスやホトトギスくらいを聞き分けるのがせいぜい：（たぶん多くの方が）。

身近にいるのに名前を知らなかった生き物たちのカラー写真が満載です。また、最近アカハラの姿を見かけなくなっただけ？、ヒマワリの種で鳥やリスの餌付け、問題ないの？などなど日頃のハテナの答えが見つかるかもしれません。

こんなに多くの生き物たちが軽井沢で暮らしているんだと知って、もっと軽井沢が好きになってほしいおすすめの一冊です。

日形が違って、決して昨日と同じではなく、自然が友達で先生。午前中に森の中をあんなに歩いたのに風寝もしないで走り回る二歳児の体力に驚きました。都会に住む我が二歳の孫息子はびよんと跳べないというのに…。スタッフが見守る中、二人中のリーダー格の五歳児は木のぼりを楽しんでました。そのあと年齢別のグループに分かれてそれぞれスタッフが見本の読み聞かせ、「静」の時間です。

午後二時、子どもたちが一斉に「おかあさん」と呼ぶと同時に、木の陰に隠れていたお迎えの父親、母親が姿を見せるよりも早くに、子どもたちが駆け寄って行きます。抱

◆困ったリンゴの木

五時過ぎに窓を開けるとウグイスの鳴き声とヒヤットした冷気が入ってくる。胸一杯に空気を吸い込みながら「軽井沢っていいなー、さあ今日の庭仕事は何しよう」と一日が始まる。

草本類が地に馴染んで鬱蒼とした山野草園が出来て来たなど満足する半面、一つ長年悩んでいることがある。それは、リンゴの木に花が咲かないことだ。千葉から越してきてから早六年、家を建ててから八年建つが早々に千葉で仕入れた二本のリンゴの苗木も結構太くなっている。山の仕事を長年やってきたので、多少の樹木の生理は理解しているつもり

であるが、ハタと解不能のリンゴ君の植物生理である。



自家受粉が難しい樹種で必ず複数本の違った種類を植えるとか、秋には剪定をやる等の決まり事はやっているつもりであるが、全く花を付ける素振りすらない。今年ももう六月末。今日は、「来年こそ咲けよ」と肥料を入れてやろうと思う。誰か、原因と対策を教えてください。

〈大槻幸一郎〉

◆我が家の主役

私のガーデニングに欠かせない植物の一つ、ギボウシ。

ギボウシは日本生まれでありながら海外での人気の方が高いようです。

葉色や形のバラエティーも美しく、花も楽しめ手間もかからず、半日陰の庭でも大丈夫。むしろ最適。好みの植物と組み合わせさせて植えたり、我が家も庭には欠かせない存在感のある花壇の主役です。〈山崎〉



◆ウグイスの方言

近所の林からウグイスの声が聞こえてくる。春、雪が消える頃どこから戻って来てお盆の頃までさえずりを聞かせてくれる。例年三月の終り頃からウグイスの声を心待ちにするのだが、去年も今年も四月の第二週頃が鳴き初めだった。

それが昨年から「ホーホケキョ」とは聞こえない。「音節多い感じ」で、どう聞こえるかというと「ほーテレビジョン」。地デジ化の年だから？でも他の場所では「ホーホケキョ」と聞こえるので、うちの近所だけの方言らしい。今年もやっぱり「ほーテレビジョン」と鳴いている。石塚さん（「軽井沢のホントの自然」の著者）に伺ったらウグイスは毎年同じ場所に帰ってくるから同じ個体かその子孫だろうとのこと。来年も「ほーテレビジョン」の子孫の繁栄を願うことにしよう。〈猪又〉



空地に花を！

☼ ☼ ☼ われもこうの会 2012年夏から秋のスケジュール ☼ ☼ ☼

日時 集合場所

8月 8日(水)	前沢の原っぱ[西]
26日(日)	発地の原っぱ
9月12日(水)	前沢の原っぱ[西]
30日(日)	発地の原っぱ
10月10日(水)	前沢の原っぱ[西]
21日(日)	発地の原っぱ
11月11日(日)	前沢の原っぱ[西]

* 午後1時30分集合

* 小雨決行、雨天の場合は中止。

* 持ち物：日除けの帽子、園芸用手袋、スコップや鎌、お茶タイム用Myカップ

* 会員以外の方の参加も
大歓迎です。

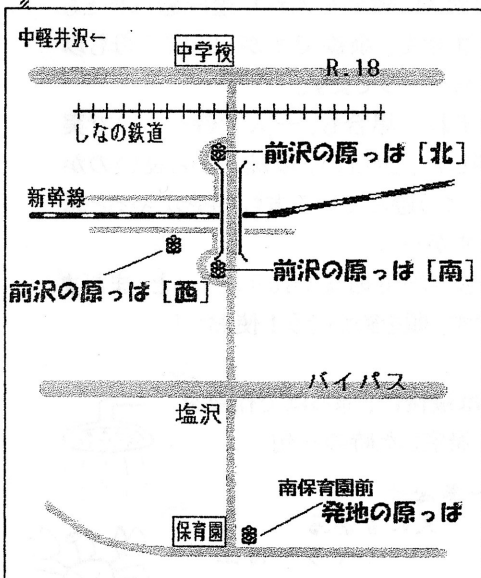
会員募集中

☼ 野の花を増やす会「われもこうの会」に興味をお持ちの方、ご自宅の庭に野の花を咲かせたい方、何かボランティアしたい方、原っぱでお待ちしています ☼

年会費・・・2,000円

65才以上と18才未満の方……………500円

家族で会員になる方2人めから…500円



*** 編集途中記 ***

ある朝、裏口の扉を開けると不思議な匂いが…。毎年嗅ぐ匂いなのにすぐには思い出せませんでした。見上げると栗の花が咲いていました。7月半ばごろは町じゅう栗の花の香りが漂っています。

思えば軽井沢では1年に1度出会える楽しみがいろいろとありますね。

ホームページもご覧ください

<http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/>

発行/われもこうの会

事務局 TEL・FAX/ 0267(46)2505